

米国における公共図書館サービスとアウトソーシング
—リバーサイドカウンティ図書館システムの事例から—
Public Library Service and Outsourcing in America
—Case of Riverside County Library System—

学生番号：201321652

氏名：水上柚香子

Yukako MIZUKAMI

米国では、公共サービスの民営化やアウトソーシングが 1980 年代から拡大してきた公共図書館も例外ではなく、1990 年代中頃から図書館サービスの民営化やアウトソーシングについての問題が顕在化しはじめた。公共図書館におけるアウトソーシングの導入はここ数十年で拡大し続け、図書館界からは「サービスの質の低下」や「アカウントビリティの欠如」など、様々な面から危惧されている。

現在、公共図書館のアウトソーシングを検討する地方政府は着実に増大しているものの、その図書館サービスへの影響についての研究が十分になされているとは言いがたい。本研究は、米国公共図書館におけるアウトソーシングが図書館サービスやその提供コストに与える影響を、リバーサイドカウンティ図書館システムの事例を通して明らかにすることを目的とし、文献調査と質問紙調査を行った。

調査の結果、リバーサイドカウンティは、図書館の運営を 1911 年からリバーサイドシティに委託していたが、主としてその関係が悪くなったためアウトソーシングを選択したことが明らかになった。また関係の悪化は「図書館の管理コストが高過ぎる」といった批判から起こっている。

統計資料の分析から得られた結果を ALA のチェックリストと比較すると、「サービスの質の低下」については、量的に見た場合は改善されている部分もあり、一概に起きているとは言いがたい。また、「地域コミュニティによるコントロールの喪失」はリバーサイドカウンティ図書館システムでは図書館の方針の決定権をリバーサイドカウンティ管理委員会が保持しているため、起きていないと考えられる。しかしながら本研究で明らかになったのは一部の「影響」であり、多くは量的な観点であるため、「蔵書構築への悪影響」等、他の問題点について今後質的に調査する必要がある。

研究指導教員：呑海沙織

副研究指導教員：逸村裕